

## つけてみませんか、お子さんの成長曲線

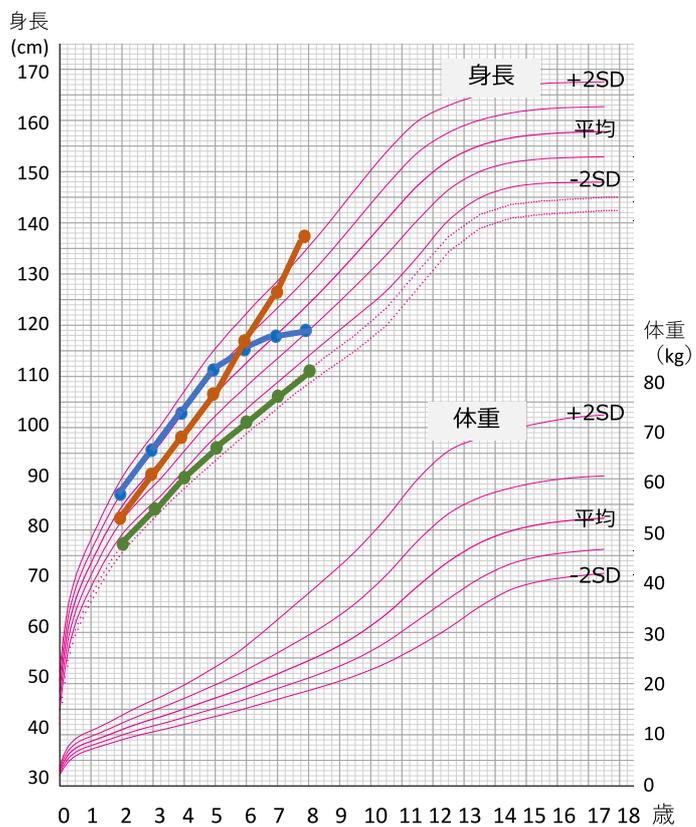
---

お子さんが小さかったころに母子手帳の身長や体重のグラフ（成長曲線）をつけたご家族は多かったと思います。一方で、就学後はわざわざつけないことが多いのではないのでしょうか。実は、成長曲線は子どもの体調をよく反映するので、厚生労働省は「成長曲線を描いてみましょう」というパンフレットを出し、文部科学省も児童生徒の健康管理に積極的に活用するよう勧めています。

身長・体重とも成長曲線の数本の赤い曲線に沿う成長で、 $-2SD$ と $+2SD$ の曲線のあいだにあれば適正な発育です。一方で、成長のパターンから体調の問題が見つかることがあります。例えば、身長が常に $-2SD$ の曲線より低いのは低身長（緑色の曲線）です。身長の曲線が赤い曲線を横切って下向きであれば身長が途中から伸び悩む続発性低身長（青色の曲線）、上向きに横切り身長が著しく伸びるときは思春期早発症が疑われます（オレンジ色の曲線）。体重の極端な変化から、太りすぎ（肥満症）、痩せすぎ（摂食障害の疑い）なども見つけやすくなります。

特に、思春期早発症はコロナ禍以降に全世界的に増え、桐生・みどり市でも同様です。思春期早発症では身長が低い段階で成長期を迎えるため最終的には身長が低くなる可能性があり、思春期を適正な時期まで抑える月1回の注射を行うことがあります。これ以外にも成長曲線の異常から体調不良や病気が見つかり、治療につながる 경우가少なからずあります。

毎年、4月の身体測定の結果をお子さんと一緒にグラフにつけ、成長ぶりを目で見て確認してはいかがでしょうか。そして、気になる変化があるようでしたら、小児科にご相談ください。



【副院長兼小児科診療部長 大木 康史】

